

## 自己を神格化せんとした信長さえ天皇になれなかった。

～以下、書評「信長と天皇（今谷明 著）」＜毎日新聞（9 2.5.18）より＞～

注：・・・・・・は省略部分。太字は引用者が強調のためにそうしました。

・・・・・・信長は正親天皇と虚々実々の闘いを演じるなか、その意図に反して、天皇を頂点とする律令制官位体制に絡めとられていった・・・・・・。当初、信長は天皇の許可なく上総介を勝手に名乗った。だが、桶狭間の戦い以後、天皇との関係を深めなければ天下人になれないと悟り、その権威と官位を利用した。本能寺の変がなければ、将軍任官は既定の事実であった。信長は官位に執心したが、その一方で、したたかな天皇を憎悪し、譲位を強要する。しかし失敗し、自己の神格化の試みも挫折した。結局、「信長も足利氏同様、将軍すなわち天皇の侍大将の地位に甘んじるほかない事実を思い知らされた」。

**信長が天皇制にとりこまれ・・・・・・、象徴天皇制（天皇が政治責任を免責され、権力に権威を付与する慣行）が戦国末期に定着していた・・・・・・。**